

Vol.66

石狩開発 株式会社

ISHIKARI DEVELOPMENT CO., LTD

編集発行/営業企画部

北海道石狩市新港西 1-721-11

TEL 0133 (72) 2200 FAX 0133 (72) 4055

協賛/石狩湾新港企業団地連絡協議会

http://www.ishikari-dev.co.jp

石・狩・湾・新・港・地・域 SAPPORT NEWS

●産業拠点●SYNERGY=SAPPORO×PORT×INDUSTRY

新たなエネルギーの供給基地へ

北ガス

石狩LNG基地、本格稼働

北電

LNG火力発電所の建設を計画

石狩湾新港の中央地区で、2008年から建設が進められていた北海道ガス㈱石狩LNG基地が昨年11月に稼働しました。また、西地区では北海道電力㈱のLNG火力発電所の建設計画が進められ、2019年2月の第一号機の完成に向け準備が行われています。

北海道もいよいよ本格的なLNG（液化天然ガス）時代を迎え、新港地域が北海道の新たなエネルギーの供給拠点として、そのポテンシャルの高さや成長分野への波及効果に期待が寄せられています。

北ガス 石狩LNG基地

ロシア・サハリンから第一号となるタンカー「エネルギーアドバンス号」(全長290m、11万9千t)が2012年11月7日、北海道ガス㈱の石狩LNG基地に接岸。運んできた満載に近いLNG（液化天然ガス、14万5千立方メートル）を貯蔵タンクに移し、気化などの試運転後、石狩LNG基地（貯蔵容量18万t）が同月末日に本格稼働しました。札幌などの道央圏には天然ガスをハイプラインで出荷し



▲中央地区（北ガス石狩LNG基地）と西地区写真上部



「LNG火力発電所」として建設も行っていきます。同社は、天然ガスをこれまで苫小牧の勇払ガス田から9割を調達してきましたが、今後は海外産の比率を7割まで拡大し、調達の安定を図りガス販売を強化します。また、二基目の貯蔵タンクを今春に着工し2016年9月の完成をめざすこととしています。

超電導・直流送電の実証を推進

～石狩市、中部大学、さくらインターネットなどにより推進協議会を設立～

新港地域



▲LNGタンカー「エネルギーアドバンス号」と北ガス石狩LNG基地（貯蔵容量18万t）

送電ロスが少なく、次世代の送電網として期待される「超電導・直流送電」の実証実験が、石狩湾新港地域で計画されています。プロジェクト推進協議会設立2/15

学、北海道大学、石狩データセンターを運営するさくらインターネット㈱、北海道、小樽市、当社で構成する「石狩超電導直流送電プロジェクト推進協議会」が設立されました。会長には田岡克介石狩市長、副会長には中部大の飯吉厚夫理事長・総長、さくらインターネット㈱の田中邦裕社長、プロジェクトリーダーに中部大山口作太郎工学部教授が役員に選出されました。



▲推進協議会設立総会



▲中部大実験施設

新港地域内

工場、物流施設の新増設

横浜冷凍、葛井倉庫、シンセメックなど

新港地域内では、操業企業の新増設が活発に行われ、食品急送(株)（橋谷智晴社長、石狩市）、(株)大果(大浦誠治社長、石狩市)などはすでに昨年増設を行い稼働しています。横浜冷凍(株)（吉川俊夫社長、横浜市）は石狩物流センターの隣接地に、35億円をかけ新冷蔵倉庫（収納能力2万4千トンの建設に4月着工し来春完成

をめぐります。また、日通グループの葛井倉庫(株)（東出徳久社長、札幌市）は、日通の用地に昨年から新たな倉庫の建設工事を行い7月末完成、8月稼働をめぐっています。延床面積15、405平方メートル（鉄骨造、平屋高床式）の倉庫のうち、一方は当り5トンの床荷重に対応できる3、300平方メートルの建設に4月着工し来春完成

部分や1,017平方メートルの定温庫（5〜15℃）を完備し、新たな営業展開を図ります。シンセメック(株)（松本英二社長、札幌市）は、新港地域の2つの工場で、自動車部品工場向けにトランスミッションやクラッチ板の組立て機械を製造し高い技術力と開発力に定評があります。このたび、食品加工機製造分野に本格参入し



葛井倉庫（仮称）石狩湾新港支店

1月18日

第27回新年交流会

講演会

「石狩湾新港発電所の建設計画」同時開催

石狩湾新港企業団地連絡協議会



立地企業で構成している「石狩湾新港企業団地連絡協議会（会長 阿部仁氏）」主催の第27回新年交流会が1月28日、札幌市内のホテルで開催され、170名を超える方が出席されました。

恒例の交流会に先立って、午後4時から「石狩湾新港発電所の建設計画について」と題し、LNG火力発電所建設に至った経緯、計画、今後の進め方など、北海道電力(株)発電本部火力部火力建設担当部長 藤井和哉氏による講演が行われました。

第二部の交流会では、立地企業や行政・金融機関などの



来賓関係者との懇談の輪が幾重にも広がり「地域の発展や企業の躍進の年に」と語り合っていました。

商品紹介 やきそば弁当 中華風醤油味 2月発売

東洋水産の北海道新工場から続々と新商品が発売されています。北海道ではおなじみの地域限定「やきそば弁当」のニューバージョンが販売されました。

北海道産米粉を練りこんだ、ソースとなじみの良い麺。ソースはオイスターソースのコクのある旨味と野菜エキスを利かし、ごま油を使用し香り高く仕上げた中華風醤油ソース。

かやくはチンゲン菜、赤ピーマン、かに風味かまぼこ、きくらげ。中華スープ付。たまらん♪ とまらん♪

希望小売価格 170円（税抜価格）
内容量 116g（めん90g）
カロリー 511kcal



■東洋水産株式会社
北海道事業部
〒061-3271 北海道小樽市銭函5-61-1
TEL:0133-75-3220
URL http://www.maruchan.co.jp

立地企業紹介 101

株式会社 トワニ



代表取締役社長 中村三男氏

道内「業務用食材」卸の最大手 共販事業体「JFSA」の中心的な存在

■業務用食材の卸 創業は昭和24年、食品添加物の卸として旭川で(株)三香商會をスタート。昭和40年には、関連会社・協和食材(株)を札幌で設立し、外食・冷食の創世期に食品添加物から総合的な業務用の総合食品卸にウエイトを転じています。

昭和61年には協同組合石狩新港卸センターの一員として協和食材が、流通団地内に社屋・倉庫・冷蔵庫を建設して業績を伸ばしてきましたが、平成7年に両社を合併させて新社名「(株)トワニ」とし、道内最大の「業務用食材」卸となりました。

営業品目は素材（農産・水産・畜産）冷凍品・調理冷凍品・チルド食品、醸造、調味料などのグローサリー食材を扱いますが、市販の加工調理済みの食品とは異なり「業務用食材」は、ホテル・レストラン・寿司店などの「外食用」、学校・自衛隊などへの「給食用」、弁当・量販店・デパートなどへの「中食用」、製菓・製パン用の「専門業種向け」の食材を扱い、そのアイテム数は1万4千点にのぼります。

■協業体JFSAの主要会員 同社は「協業化」のパイオニア的存在である「日本外食流通サービス協会（略称：JFSA、本部仙台市）」の主要な会員企業です。中村社長は当初から中心的な存在で、現在、同協会の副会長として活動しています。

JFSAは、昭和32年に発足した我が国最初の業務用食材卸売企業の協業体（三栄会が母体となり、東北・北海道を基盤に他の地区へと拡大発展をはかり、昭和55年に設立されました。これは、個々の単独企業では販路・価格・サービスなどの限界があるなか、中小の食材卸同士が結束し合って、食品メーカーなどと販売を通して「共存共栄」をめざすものです。

現在のJFSA会員企業は、北海道ブロック10会員を含む全国32会員で、販売高は年間3500億円を越えています。他方、賛助会員として、のキューピー、味の素など、共販メーカーは93社（冷凍部門23社、一般部門25社、協力メーカー33社）からなり、こ

れらメーカーからの会員企業の購入（共販取扱）高も、1205億円超に達し、右肩上がり増加しています（平成23年度、賛助会員メーカーからの購入目標の設定と販売管理、国内外からの一括共同購入、新商品の企画開発、流通システムの運用、マーケティング情報提供など、「共販制度」の様々なメリットを活かして展開されています。

■共販のネットワーク 同社の道内販売網は、石狩の基幹部門である札幌店、旭川店、北見店の3店にはそれぞれ倉庫と冷凍庫を設備するほか、6営業所、2配送センターを設け、同社の売上は平成23年で160億円となっています。

また、JFSA関連会社で、「(株)北海道冷凍食品流通センター」を昭和50年に設立しています。北海道内ブロックのJFSA会員企業と主要冷蔵メーカーとのオンラインデータ交換により、メーカーの受発注代行業務、商品の共同保管管理と共同配送を行う会社です。昭和61年に石狩新港卸センターの一員として石狩に進出。平成8年、「(株)ジェフサ道流

株式会社 トワニ
本社/札幌市白石区米里1条西4丁目
管理部門・札幌店/
石狩市新港西1丁目723-6
TEL:0133-73-8222
代表者/中村三男氏（代表取締役社長）
社員数/225名
資本金/7,500万円
WEB/http://www.towani.co.jp

